

論壇

人々の働き方が変わる

AI（人工知能）、IOT（モノのインターネット）、ロボットなどが、人々の仕事を奪ってしまうのではないかと議論がある。あるいは、ロボットができるような仕事しかできない人の所得は大幅に下がってしまう、格差が広がるのではないかと心配する人も多い。

確かに、大きな技術革新が起きれば、私たちの生活や労働の環境も大きく変わる。これまでと同じというわけにはいかない。技術に対応していくことが必要だ。特に、

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

これから社会に出ていく若い人には、変化に戸惑わないような能力や技術を身につけてほしいものだ。

200年前の産業革命は、人々の働き方を大きく変えた。それまでは、力持ちの労働者の価値が高かった。重いものを運んだりする仕事が多かったからだ。しかし、

オフィスで仕事をするような労働者が増えたのだ。重いものを運ぶのではなく、重いものを運ぶ機械を操作する人の方が、評価が高くなったのだ。そうした状況をみて、

労働者は自分たちの仕事が多くなると、怒って機械を打ち壊した。気持ちはわかるが、愚かな行為だった。機械と張り合うのではなく、

労働力と技術革新

産業革命でそうした肉体労働を機械が代わりにやってくれるようになる。肉体力労働の価値は大幅に低下した。かつては力持ちの労働者もつとも価値のあるものだったが、そうではなくなったのだ。

人々の仕事はレイバーからワーカーになった。機械を操作したり、

機械を使いこなすようになるべきなのだ。

今起きている技術革新でも、同じようなことが言えないだろうか。ロボットや人工知能に自分たちの仕事は奪われないかと心配するよりも、ロボットや人工知能をどうやって使いこなすのかを考え

の方がよい。全ての仕事をロボットや人工知能ができるわけではない。人間の価値は、ロボットなどにできないことをやることにあ

る。

産業革命で次々に機械が出てきて、肉体労働者の仕事を奪った。でもそれで人々の仕事は減っていったらどうか。断じてノーである。機械を操作して、もっと多くの仕事の成果を出すことができるようになっただけである。仕事はむしろ増えたはずだ。人工知能やロボットも同じで、それを活用することで、新たな仕事も出てくるだろうし、生活の質を高めることも可能

なはずだ。

対応遅すぎる教育現場

問題は、今の教育がそうした変

化に対応できていないことだ。専門家は子供たちのプログラミング教育の重要性を叫んでいるが、諸外国に比べて現場の動きは遅すぎる。今の子供たちが、技術の大きな変化に対応できないまま社会に出ていくことになりかねない。

プログラミングだけではなく、インターネットを活用すれば、情報はいくらでも集まるはずだ。ワープロを使えば、難しい漢字を使った文章も書ける。それなのに、入試問題などを見ると、いまだに知識を覚えることを求める問題ばかりだ。子供たちは「暗記」に膨大な時間を使っている。まるで、産業革命で機械が増えていのに、労働者が相変わらず自分の筋肉を鍛えようとしてしているように見える。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。